

がんばって テンちゃん

2025年 立花吾孺の森小学校



少し元気すぎたてんぐちゃんは、鼻にけがをしてしまいました。お医者さんにも通い、ようやくけがも治りました。小さいころからの仲良しの豚ちゃんの励ましてもらったおかげで元気になりました。以前のようなあらあらしいところはなく、豚ちゃんが信じたとおり、やっぱり心の優しいてんぐちゃんだったのです。



あの日以来、テンちゃんと豚ちゃんは、保育園のころのような仲良しに戻りました。いつもいつも一緒に過ごしています。そんなある日のことです。学校からの帰り道でした。二人が仲良く話しながら歩いていると「ドン！」何かが背中に当たったような気がしました。



「あれっ？なんだろう。」後ろを振り返りましたが、何もありませんでした。ただ、足元に小さな石が転がっていたことには気づきました。不思議な気持ちのまま、その日は家に帰ったのです。



次の日の朝です。友達の豚ちゃんと待ち合わせをして学校にいつものようにやってきました。「あれっ？ぼくのうわばきがない！！」テンちゃんは家に持って帰っていないはずなんだがと、不思議に思いながら周りを見ってみました。



あちこち探してみると、廊下の
大きなごみ箱の陰に靴があるの
を見つけました。

「なんでこんなところにある
のかな？」



豚ちゃんが、心配して話しかけてきました。「テンちゃん、これ、誰かの意地悪だよ。きっとそうだよ。昨日の石も、今日の靴も、誰かが意地悪をしてるんだよ。先生に相談してみたほうがいいよ。」

テンちゃんは首を振りしました。

「大丈夫、僕は誰にも負けないてんぐのてんちゃん。こんなことぐらい平気さ。」胸をどんとたたき、やけに明るい顔でテンちゃんは笑っていました。



家に帰ったテンちゃんは、いつものようにスクールバスに乗って近くのきれいな池で開いている水泳教室に行きました。着替えはいつも、大きな木の陰でしています。



テンちゃんが、服を脱ぎ、水着に着替えようとしていた時です。パシャッ！何かが光ったような気がしました。「雷かな。いや空はきれいな青空だ。違う、違う。誰かに写真を撮られたんだ。」。



翌朝、学校についてテンちゃんは、きちんと上履きがあるのを見て安心しました。「ああ、よかった。昨日のはいたずらなんかではなかったんだ。」靴を手にしたテンちゃんは、靴の中に何かを見つけました。



テンちゃんは
顔を真っ赤にして、その何かを
ぐちゃぐちゃに丸めて握ったま
ま、校庭の向こうに走って行っ
てしまいました。

ブタちゃんが心配して追いかけ
ました。

「テンちゃん、待って どうし
たの？」



「どうしたのテンちゃん。」息を切らせながら、その様子を見ていて心配になったブタちゃんが追いかけてきました。「テンちゃん、何があったの？」



ようやく手の中に丸めたものを
ブタちゃんに渡してくれました。
テンちゃんの目には涙があふれ
ていました。
それはテンちゃんの写真でした。
それも、大きな木の陰で裸に
なって着替えている写真でした。



その日、テンちゃんは熱を出し、給食も食べずに家に帰りました。そして、次の日から、学校に来なくなってしまいました。先生も、クラスのみんなも熱がなかなか下がらないんだと話していました。朝、家に迎えに行ってもテンちゃんには会えません。今日もお休みです。



ブタちゃんは、勇気を振り絞って、担任の先生に今までのことを全部話しました。先生は大きくうなずきながら、ブタちゃんに言いました。

「ブタちゃん、教えてくれてありがとう。そうだったんだね。テンちゃんは、ずっとつらい思いを我慢していたんだ。先生にもっと早く相談してくれればよかったのに。いや、もっと早く気づけなかった、私にも責任があるんだ。」



こうして、ようやくテンちゃんが誰かに意地悪をされていることがわかりました。背中に石がぶつけられた日から、すでに二か月がたっていました。先生たちも一生懸命にテンちゃんのために問題を解決しようと頑張っています。でも、まだいじめていた人が見つかりません。テンちゃんも、まだ学校を休んだままです。

ブタちゃんは信じています。必ず問題が解決して、テンちゃんと一緒に登校でき日が来ると。



先生は みんなが 笑顔で、
元気に学校に通ってきてほしい
んです。

皆さんも同じです。もしも嫌
なこと、つらいことがあったら、
我慢をしないで、地区の大人、
ブタちゃんのような友達でもい
いのです。相談してください。

みんなにはシャボテンログも、
相談用紙も、あります。自分で
抱え込まないで相談してほしい
んです。



その後 先生やクラスの仲間が一生懸命に調べて、ようやくすべてがわかり、テンちゃんも安心して学校に通うことができるようになりました。実は、すべては同級生のカラスのカーくんのしわざだったのです。それもいじわるではないと分かったのです。

実は石は、カー君が宝物のブルーの石を友達に見せようと口にくわえて飛んでいた時に、うっかりくしゃみをして落としてしまったと分かったのです。

上履きも、だれのものかわからないものが落ちていたので、カラスくんの習性で自分のお気に入りのところに無くならないように、そっと置いていたのです。



裸の写真は、カメラを買ってもらったばかりでうれしくて、空から片っ端から友達の写真を撮っていたんです。



それを片っ端から友達、そして先生にまで配っていたと分かりました。
今回のことを反省し、カラスくんはテンちゃんに謝りました。
みんなにもあやまり、前よりももっともっと仲良しになったということです。

おわり

2025年12月8日

立花吾孺の森小学校

越智 健一郎 作画